平成３０年度第４回三重県総合教育会議　議事録（概要）

１　日　時　　平成３０年９月６日(木) 13:30～15:00

２　場　所　　三重県勤労者福祉会館　６階　研修室

３　出席者　　知事、教育長、教育委員４名

４　議　題　　若者の県内定着について

５　主な意見　○：教育委員、●：知事

○　県内大学の取組について、特に親への訴えが足りていないので、高校や親へしっかりアピールしていくことが、「高等教育コンソーシアムみえ」としても必要であると考える。

進学や就職に際して、子どもが決めた就職先に保護者が反対するケースも見られるので、例えば、リカレント教育というかたちで、親に対するキャリア教育を行うことも大学の役割の一つであると考える。

高校と大学が接続するかたちで地域志向科目を設定し、その結果として地域に根差して活動する、県内で就職する学生に対して、高校や大学が支援する仕組みがあっても良い。

○　高校の進路指導は偏差値重視となっているように思う。大学におけるそれぞれの取組について、高校の進路選択の段階において周知が足りていないので、大学でどんな内容が学べるのか等の情報についてしっかりアピールし、高校の進路指導においてもそれを重視していくべきである。

高校のキャリア教育の内容をもう少し考えていくべきである。地元にも魅力ある働く場があるというアピールが足りていない。「みらいセミナー」のような取組が全ての高校において行われれば、一旦外に出て、将来地元に戻ってきたいと思っている学生に対して、しっかり受け皿があるということを教えていけるのではないかと考える。

県外に出て行っている学生が地元企業を知ることは難しい。学生が帰省をしている夏休みなどにＪｏｂキャラバンや企業見学のバスツアーなどの取組を行うことが有効だと考える。

○　これまで数多くインターンシップを受け入れてきたが、採用につながる場合も有り、離職も少なくなるため、インターンシップは有効な取組である。しかし、学校が固定的になっているので、受け入れる学校を広げていきたいと考えている。

地域ビジネス創出プロジェクト（ＳＢＰ）の取組では、生徒は実際の現場で地域に役立つ取組を行うことを通じて様々な企業や大人と接点ができ、交流することにより、世の中を体感するよいキャリア教育の機会となるので、県内で取り組む学校を増やすことができたらいいと思う。

大学生は就職セミナーや企業展などで直接企業やその担当者

と接する機会があるが、高校生にはそのような機会が少ないこともあり、離職といったミスマッチにもつながっているので、合同進路説明会「みらいセミナー」は、企業と接点を持つ機会となり良い取組である。

○　進学時に県外に出てしまうのは、県内大学の収容力が小さいことが関係している。

一般的に学力をつけると県外へ出て行ってしまうと考えがちであるが、親がより豊かなイメージを持てるように、親へのキャリア教育が必要であると思う。

教職大学院は、県外の大学出身者が県内の学校に就職する「中継基地」のような役割を果たしている。一旦、県外に出た者が県内に戻ってくる場合に足りない情報を提供し、親身になって相談にのってくれるコーディネーターがいると、安心感が生まれる。そのための「中継基地」となるような機関（ＮＰＯ等）があるといいのではないか。

○　第２回総合教育会議で実践発表をした明野高校や鳥羽高校の生徒たちを見ていると、高校時代に地域の人と地域課題を一緒に考える「地域課題解決型」のキャリア教育に取り組むことで、生きる力だけでなく地域への愛着を育むことを実感した。このような取組を県内各校に拡げることで、一旦県外の大学に進学したとしても、三重のことを考え、就職時に三重県に戻ってくる若者が増えるのではないか。

●　「みらいセミナー」は、初期情報を知る場であり、企業等に興味を持つきっかけとして良い取組だと思う。

リカレント教育はしっかりやっていかなければならない。そこに親世代にも三重県の企業の情報などを知ってもらうという視点は重要である。

企業と学生の思いがミスマッチな状態であり、間を埋める機能が足りないと思っている。コーディネート機能のようなものが大事である。

一旦外に出て行ってしまうことについて、三重県で学びたいのに学びたいものがなかったり、学ぶ質が自分の希望に合わなくて外に出ていかざるを得ないのであれば、そこは高等教育機関において魅力向上など質のところの取組を頑張ってもらわなければならない。外に出ていってしまう理由のところで課題があるのであれば、そこはしっかりおさえておかなければならない。

以上